

1. 本時の位置付け

本時は3時間連続の授業とするため、3時間分をまとめて「本時」としています。

本時は、高等学校学習指導要領(平成30年告示)及び同解説【公民編】に記載されている以下の内容の一部と関連します。

展開	【公共】 「金融の働き」	<u>公民科</u> B ア (ウ) 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。 <内容の取扱い> 金融とは経済主体間の資金の融通であることの理解を基に、金融を通じた経済活動の活性化についても触れること。 <解説> ・現代の経済社会における金融の意義や役割を理解できるようにするとともに、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割、中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解できるようにする。 ・金融は、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解できるようにする。(中略)様々な金融商品を活用した資産運用にともなうリスクとリターンなどについて、身近で具体的な事例を通して理解できるようにすることも大切である。
----	-----------------	--

また、金融リテラシー・マップとの関係では、「分類4 金融分野共通」、「分類7 資産形成商品」の学習を含んでいます。

2. 本時の目標

- ・ 現代の経済社会における金融の意義や役割、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割、中央銀行の役割や金融政策を理解する。
- ・ 金融は、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解する。
- ・ 様々な金融商品を活用した資産運用にともなうリスクとリターンなどについて、身近で具体的な事例を通して理解するとともに、将来の資産運用について考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

3. 評価のポイント

- ・ 現代の経済社会における金融の意義や役割、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割、中央銀行の役割や金融政策を理解している。
- ・ 金融は、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解している。
- ・ 様々な金融商品を活用した資産運用にともなうリスクとリターンなどについて、身近で具体的な事例を通して理解するとともに、将来の資産運用について考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。

4-1. 本時の流れ(第1時)

第1時から第3時は、J-FLEC 提供教材「株式等学習シミュレーション」(以下、「本シミュレーション」という。)を活用して授業を展開します。

	テーマ	学習活動(●は教師の活動、○は生徒の活動)	指導上の留意点
導入 10分	株式会社の仕組み	名前を聞いたことがある株式会社を挙げてみよう。 ●本時は本シミュレーションを通して経済の仕組みなどを学習することを説明する。 ○株式会社とは、株式の発行によって集めた資金をもとに設立された会社であること、株式には発行市場と流通市場で取引されるものがあり、本シミュレーションでは流通市場における株式を売買することを理解する。	・本シミュレーションは専用 WEB サイトにアクセスすれば、その日から利用可能。 ・株式会社には上場と非上場会社とがあり、本シミュレーションでは東京証券取引所上場会社のうち、プライム銘柄とETFに限って取引できることも確認する。
展開① 25分	金融リテラシーの習得・本シミュレーションの目的およびルール理解	動画を視聴して本シミュレーションの目的やルール等を理解しよう。 ●動画「私たちとお金の関わり ～株式等学習シミュレーションをする前に知っておきたいお金の話～」を全編視聴させ、生徒に身の回りのお金との関わりについて理解させるとともに、本シミュレーションの目的およびルールについて理解させる。 ○動画を視聴し、身の回りのお金との関わり、本シミュレーションの目的およびルールについて理解する。	・動画は専用 WEB サイトにログイン後に閲覧可能。 ・「株式等学習シミュレーション ガイドブック」(以下、「ガイドブック」という。)はログイン前の「学習教材紹介」のページから誰でも閲覧可能。
展開② 10分	チーム分け及びチーム目標の設定	本シミュレーションにおけるチームの目標を設定しよう。 ●チーム毎に分かれるよう指示し、本シミュレーションのサイトにログインする。また、チームで実施することで、目標達成を目指す過程でコミュニケーション能力や協調性を養うことをねらいとしていることを説明する。 ○チーム毎に分かれ、本シミュレーションのサイトにログインするとともに、チームで実施することの意義を理解し、チーム目標を設定する。	・事前にチーム分けとチーム名登録を済ませておき、チームリーダーに「学校 ID/パスワード/チームコード/チームパスワード」を伝えておく。 ・チーム分けの方法は学校や生徒の実態に合わせて実施する。
まとめ 5分	学習のまとめ	本シミュレーションの目的は何だろうか。 ●本時の学習を振り返る。また、次回は銘柄選定をし、対象の銘柄を購入することを伝える。 ○本時の学習を振り返り、気づいたこと、学んだこと、もっと学習してみたいことなどをまとめる。	・保有資産によって順位が決まるが、順位を競うことが目的ではないことに留意する(短期売買を繰り返すようなマネーゲームに陥らないように指導する)。

4-2. 本時の流れ(第2時)

	テーマ	学習活動(●は教師の活動、○は生徒の活動)	指導上の留意点
導入 5分	前時の復習と本時の内容確認	皆さんが購入してみたい銘柄は見つかったでしょうか。 ●本時は本シミュレーションを通して流通市場における株式を売買することを説明する。 ○前回の内容を復習するとともに、本時は本シミュレーションを通して流通市場における株式を売買することを理解する。	・授業内に時間が取れない場合、第2時を宿題としてもよい。 ・グループに分かれて座るよう指示しておく。
展開 ① 20分	株式の取引と株価	株価はなぜ変動するのだろうか。 ●株式の取引と株価について、「ガイドブック」(p.19～23、27～31)を用いて説明する。 ○各自の端末で「ガイドブック」(p.19～23、27～31)を閲覧しながら株式の取引と株価について理解する。 なぜ、A社の株価は変動したのだろうか。 ●株価の変動は様々な要因によって起こることについて、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割、中央銀行の役割や金融政策の目的と手段と関連させて考察させる。 ●個別の会社の情報は、「会社名」+「IR 情報」のキーワード検索などで調べることができることを説明する。 ○株価の変動要因について、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割、中央銀行の役割や金融政策の目的と手段と関連させて考察する。	・「ガイドブック」(p.37)の日経平均株価と TOPIX (東証株価指数)の推移を活用してもよい。
展開 ② 20分	銘柄選定と取引	選定銘柄とその理由を考えよう。 ●グループに分かれ、「ガイドブック」(p.26～35)を活用しながら、売買対象(プライム銘柄とETF)の中から購入する銘柄を選定し、各チーム 500 万円の仮想所持金を取引させる。 ○チーム内で協力して取引をする。	・株式を保有できた後に「売」ができるため、最初は「買」のみ選択できることに注意する。 ・購入理由の根拠を明確にさせる。
まとめ 5分	学習のまとめ	銘柄選定の理由は考えられただろうか。 ●本時の学習を振り返る。 ○本時の学習を振り返り、気づいたこと、学んだこと、もっと学習してみたいことなどをまとめる。	・最初の「買」と根拠付けが終わらなかったチームは課題とする。学校や生徒の実態と合わせ、本シミュレーションの売買期間(スタートと終わりの時期)、時間(授業内のみか、放課後なども含めるか等)などを決めるとよい。

4-3. 本時の流れ(第3時)

	テーマ	学習活動(●は教師の活動、○は生徒の活動)	指導上の留意点
導入 5分	前時の復習と本時の内容	皆さんが購入してみたい銘柄は見つかったでしょうか。 ●本時は本シミュレーションの経過観察をし、資産推移の状況などをクラス内で共有するとともに、投資の意義を理解し、将来の資産形成について考察することを説明する。 ○前回の内容を復習するとともに、本時の内容を把握する。	・グループに分かれて座るよう指示しておく。
展開 ① 20分	本シミュレーションの経過観察	売買記録と現在の資産状況を見て、1銘柄を選定し、株価の変動要因を分析してみよう。 ●本シミュレーションのサイトにログインし、取引結果一覧(「a.取引報告書」と「b.保有株式の状況」、「手持現金残高」、「時価評価額合計」、「資産合計」)を確認し、ワークシートに記入するよう指示する。複数銘柄購入している場合は1銘柄を選定し、株価の変動要因を分析させる。 ○各自の端末で本シミュレーションにログインし、状況確認をするとともに、株価の変動要因を分析する。 ●クラス内の数チームに状況と分析結果を発表させる。 ○クラス内で共有された情報をもとに、考察を深める。	・「b.保有株式の状況」は前営業日の終値が反映されているため、授業時の株価(現在値)とは異なる可能性がある。 ・保有資産の順位が分かるため、高順位であるチームに発表をしてもらうのもよい。 ・変動要因は様々であり、必ずしも特定できない場合もある。ここでは、生徒に考察させることが重要である。
展開 ② 20分	将来の資産形成	将来、自分の資金で株式投資をしてみたいか、してみたくないか。またその理由を考えてみよう。 ●生徒の身近な事例から考えられるよう、「貯蓄から投資へ」のキーワードとともに NISA 制度を紹介する。また、資産形成に利用される金融商品には普通預金、定期預金、債券、株式、投資信託などがあり、それぞれのリスク(収益性のブレ)とリターン(収益性)について説明する。 ○様々な金融商品を活用した資産形成にともなうリスクとリターンを理解する。 ●将来、稼いだお金を1ヶ月にいくら、どのような金融商品で運用してみたいかを考えさせ、クラスメイトと共有させる。 ○将来の資産形成と紐づけて、働いて稼いだお金をどのように使い、貯蓄や投資に回していくかを考察する。	・家庭基礎で学習した内容を想起させる。 ・資産形成の元手となるお金は職業選択の上で自身が得たものであることに気づかせる。 ・金融庁の「つみたてシミュレーター」などで実際にシミュレーションをしてもよい。
まとめ 5分	学習のまとめ	本シミュレーションを通して学んだこと、また将来の資産形成と関連させて考えたことをまとめよう。 ●本時の学習を振り返る。 ○本時の学習を振り返り、気づいたこと、学んだこと、もっと学習してみたいことなどをまとめる。	・参考教材として、金融経済教育推進機構(J-FLEC)の「新成人のための人生とお金の知恵」を紹介する。

5. ワークシートの解答・解答例

ワークシート

金融の働きと資産形成 ～株式等学習シミュレーションを活用して～

	年 組 番	名前
--	-------	----

1. 基本情報(チーム名/学校コード/学校パスワード/チームコード/チームパスワード)

チーム名	学校コード	学校パスワード	チームコード	チームパスワード
チーム毎	学校内共通	学校内共通	チーム毎	チーム毎

2. チーム目標

(例) 目指せ1位! SDGs関連銘柄に着目して「三方よし」の投資をしよう

【第1時のまとめ】株式等学習シミュレーションの目的を以下にまとめてみよう。

(例) 株式等の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている現実の経済・社会への関心を高めること

3. 株価の変動要因

動画・ガイドブックの説明から以下にまとめてみよう。

(例) 需給バランス、企業の業績、将来性、金利、為替、政治、国際情勢、天候、関税など

4. 銘柄選定とその理由(1銘柄以上)

銘柄 (省略) 銘柄コード (省略)	銘柄 (省略) 銘柄コード (省略)	銘柄 (省略) 銘柄コード (省略)
理由	理由	理由
(省略)	(省略)	(省略)

【第2時のまとめ】銘柄選定のポイントや感想を以下にまとめてみよう。

(例) A社は国内向けの製品を製造・販売しているため、関税などの影響を受けにくく、今後の業績予想も好調であると判断した。また、この会社は、環境への負荷を減らす取組にも力を入れているので、応援したいと思い、購入することに決めた。

5. 経過観察

①「a.取引報告書」と「b.保有株式の状況」を閲覧し、「手持現金残高」、「時価評価額合計」、「資産合計」を以下に記入しよう。

手持現金残高 (省略)	時価評価額合計 (省略)	資産合計 (省略)
----------------	-----------------	--------------

現時点で、500万円より資産は [減った ・ 増えた ・ 変わらない] へいずれかに○をつける

②1つの銘柄を選定し、取得単価と受渡金額、現在値と評価額を比較し、株価の推移がなぜそのようなになったか分析してみよう。

選択した銘柄 [(省略)] どのような会社か? ((省略))

取得単価 ((省略))円	数量 ((省略))株	受渡金額 ((省略))円
現在値 ((省略))円	数量 ((省略))株	評価額 ((省略))円

この銘柄の評価額は [減った ・ 増えた ・ 変わらない] へいずれかに○をつける

分析

(省略)

※ 他のチームの状況を聞いて気づいたことがあればメモしよう。

4. 将来の資産形成

①株式等学習シミュレーションの目的は「株式等の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている現実の経済・社会への関心を高めること」だったが、資産形成の手段として、株式投資をしてみたいか? その理由を隣の人と話してみよう。

私は将来、株式投資を [してみたい ・ してみたくない ・ 分からない] へいずれかに○をつける

Check!! 「貯蓄から投資へ」を促す政策的背景、NISA 制度、リスクとリターン(「家庭基礎」の内容も思い出してみよう)

②将来、1ヶ月にいくら、どのような金融商品に稼いだお金を運用してみたいか考えてみよう。

また、周りの人と意見交換してみよう。

1ヶ月 ((省略))円

預貯金、債券、投資信託、株式など

【第1～3時のまとめ】

5. ふりかえり

株式等学習シミュレーションを通して学んだこと、また将来の資産形成と関連させて考えてことをまとめてみよう。

(省略)

6. 参考資料

金融経済教育推進機構(J-FLEC)

- ・株式等学習シミュレーション

<https://stocksimulation.j-flec.go.jp/>

- ・同「ガイドブック」

https://stocksimulation.j-flec.go.jp/pub/info_teaching/teaching_materials

- ・「新成人のための人生とお金の知恵」

<https://www.j-flec.go.jp/materials/shinseijin/>

金融庁

- ・「つみたてシミュレーター」

<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/tsumitate-simulator/>

金融の働きと資産形成 ～株式等学習シミュレーションを活用して～

年 組 番	名前
-------	----

1. 基本情報(チーム名/学校コード/学校パスワード/チームコード/チームパスワード)

チーム名	学校コード	学校パスワード	チームコード	チームパスワード
------	-------	---------	--------	----------

2. チーム目標

--

【第1時のまとめ】株式等学習シミュレーションの目的を以下にまとめよう。

--

3. 株価の変動要因

動画・ガイドブックの説明から以下にまとめてみよう。

--

4. 銘柄選定とその理由(1銘柄以上)

銘柄 銘柄コード

銘柄 銘柄コード

銘柄 銘柄コード

理由

理由

理由

【第2時のまとめ】銘柄選定のポイントや感想を以下にまとめてみよう。

--

5. 経過観察

①「a.取引報告書」と「b.保有株式の状況」を閲覧し、「手持現金残高」、「時価評価額合計」、「資産合計」を以下に記入しよう。

手持現金残高

時価評価額合計

資産合計

現時点で、500万円より資産は【 減った ・ 増えた ・ 変わらない 】←いずれかに○をつける

